

## 国上山のブナ林

越後平野などの沖積平野部を除く新潟県の山地帯には、かつて広い範囲にブナが存在していたといわれる。しかし、人の生活圏の拡大につれ、それらは次第に消滅し、特に、海拔の低い海岸の山地には、まとまったブナの林はほとんど見ることができない状態になっている。このような状況の中で国上に見られる林は、「低地に残された希少なブナ林」としてその価値が大きい。加えて、この樹林の林床には、ヤブツバキとユキバタツバキが分布しており、県内でもブナとヤブツバキ・ユキバタツバキが共存している唯一の林であってその保存は極めて意義深い。

国上のブナ林は、国上寺の裏にあり、海拔 180m、面積約 10ha に広がる。

このブナ林にはヤブツバキの他、アカガシ、シロモダ、ヒサカキ、クサイチゴ、シラキ、カラスザンショウ、アワブキ、クマノミズキなどヤブツバキクラス域の構成種が混生していることでも特色であり、県内では稀な例である。

ブナ林に近接した樹林内に生育するケタガネソウは、県内ではここだけに見られる稀産種である。アカマツと混生していたが、近年のマツクイムシの被害で、本数が少なくなっている。

国上山のブナ林は、低地に残存する貴重な存在であると共に、その樹林に結び付いた特徴的な植物が生育していることで価値が高い。指定にあたっては、ブナ林だけを対象とするのではなく、周辺の樹林やそれを構成する要素すべてを包括した自然状態が重要であるので、ブナの生育地を含めた地域を一括して天然記念物にしている。

平成 5 年 3 月 30 日 県指定天然記念物

